

SENZOKU GAKUEN COLLEGE OF MUSIC

FANFARE
ORKEST



33RD
REGULAR
CONCERT

2022/11/18

START 18:30

(OPEN 18:00)



新型コロナウイルス感染症の 感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

PROGRAM

B.アッペルモント / **十字と王冠** 強きには力、弱きには慈悲を
Bert Appermont (b.1973) // The Cross & The Crown - Force a Superbe, Marcy a Foble

C.ウィットロック / **デデム男爵**
Carl Wittrock (b.1966) // The Baron of Dedem

T.ドス / **セント・フローリアン・コラール**
～アントン・ブルックナーに捧げる～
Thomas Doss (b.1966) // St. Florian Choral - In Memoriam Anton Bruckner -

J.ヴァンデルロースト / **オスティナーティ**
Jan van der Roost (b.1956) // Osrinati

～ 休憩 ～

J.ヘルメスベルガー2世 (B.ヴァン・ティーネン編曲) / **悪魔の踊り**
Joseph Hellmesberger, Jr. (1855-1907) // Arr. Bert Van Thienen // Danse Diabolique

A.ハチャトリアン (滝澤尚哉 編曲) /
バレエ音楽「ガイーヌ」 (ポリショイ劇場版) より
Aram Khachaturian (1903-1978) // Arr. Naoya Takizawa // Baller from "Gayane"

導入部「友情」

友人の踊り

レスギンカ

間奏曲

娘たちの踊り

アイシャとガイーヌの場面

ヌーネの踊り

剣の舞

収穫祭

Introduction "friendship"

Dance of the Friends

Lezginka

Act tune

Dance of Rose Maidens

Dance of Aysha and Gayne

Dance of Nune

Sabre Dance

Harvest Festival

PROGRAM NOTES

B. アッペルモント / 十字と王冠 強きには力、弱きには慈悲を

ベルト・アッペルモント (b.1973) はベルギー出身の作曲家。ルーヴェンのレメンス音楽院にて本学客員教授であるヤン・ヴァンデルロースト氏らに師事をして作曲、指揮を学ぶ。1988年に同学を卒業後は吹奏楽作品の作編曲を多く手掛け、日本でもコンクール等で頻繁に演奏されるなど注目の作曲家となってきている。

この曲はケベック州のミリタリーバンド、ケベック選抜軽歩兵軍楽隊の150周年を記念して委嘱された作品である。タイトルの「十字と王冠」は軍楽隊のエンブレムからとられたとされている。長き歴史を持つ軍楽隊の様々な歴史が曲中で表現されており、さらに150周年という祝祭日の喜びが表現されている作品である。

トランペット 2年 杉原 輝

C. ウィットロック / デデム男爵

カール・ウィットロック (b.1966) はオランダのグールで生まれた。彼はグールにある音楽学校でヴァイオリンとクラリネットを始める。その後、オランダにある9つの音楽院のうちの一つであるArt EZ音楽院で音楽教育と指揮を学び、国内および国際的なさまざまな指揮コースで指揮の研究をした。1484年からはいくつかのオーケストラで指揮をする傍ら、オランダ、ヘンゲローのトゥイッケル城で音楽教育も行っている。彼が作曲を始めたのは1985年。主にファンファーレオーケストラのための曲を作っている。2014年になると当時の国務長官であるアंक・バイレフェルによってオレンジ・ナッソー騎士団（社会のために特別な功績をあげた者に与えられる勲章を持つ騎士団）の騎士に任命された。

タイトルの「デデム」とは、オランダの男爵ヴァン・デデム・トート・デン・ベルグという実在した人物のことである。彼はかつてオランダの広大な泥炭地を支配しており、1809年には燃料を輸送するための運河の建設を始めた。当時、燃料は人々にとって非常に重要なものであったため、この功績を讃え出来上がった運河には男爵に因み『デデム・スヴァールト運河』と名付けられた。

トロンボーン 2年 中田 夏葵

PROGRAM NOTES

T.ドス / セント・フローリアン・コラール

～アントン・ブルックナーに捧げる～

トーマス・ドス (b.1966) はオーストリアに生まれた。両親は共にオーケストラで活動する音楽家で、彼は7歳の頃からテノールホルンとトロンボーンを学び、11歳の時には作曲も始める。その後、リンツにあるブルックナー音楽大学にてトロンボーン、作曲、指揮、ピアノを学び、1988年にウィーン室内管弦楽団の指揮者、1991年にクヴェトリンブルク国立管弦楽団の首席指揮者など幅広く活躍する。

この曲はアントン・ブルックナー (1824-1896) を追悼するために書かれた曲である。題名にある「セント・フローリアン」とはオーストリアにある聖フローリアン教会を指し、ここはブルックナーがオルガニストとして在籍していた教会であった。今でも彼の遺体はこの教会のオルガンの真下に安置されている。作品全体は静かに神へ祈りを捧げるような美しい旋律で構成されている。

ユーフォニアム 2年 関口 嬉架

ヤン・ヴァンデルロースト / オスティナーティ

ヤン・ヴァンデルロースト (b.1956) はベルギーの作曲家・指揮者。少年時代よりフリューゲルホルンやトロンボーンを始め、レメンズ音楽院を卒業。また王立ヘント音楽学校でフーガを、アントウェルペン王立音楽院で合唱指揮と作曲を学んだ。現在はレメンズ音楽院で教鞭を執るほか、洗足学園音楽大学の客員教授も務める。

この曲は洗足学園音楽大学の委嘱により作曲され、2011年6月11日に作曲者自身の指揮により同大学内の前田ホールにて初演された。曲名の由来となる「オスティナート(伊: ostinato)」とは、音楽においてあるパターンを連続的に繰り返すことを指す。ostinatoはイタリア語で「がんこな」「執拗な」という意味があるため、日本語では執拗音型、執拗反復などと呼ばれることもある。曲は三楽章構成。曲名の通り各楽章で固有のテーマが執拗なほど繰り返され、オスティナートの構造をとっている。

第一楽章：特徴的なティンパニのソロに始まる。後から管楽器が参加し不穏な響きを作り上げるが、フリューゲルホルンの穏やかな旋律により音楽はその激しさを失い、落ち着きを得る。この旋律は五音音階を用いており、第一楽章のテーマのひとつとして繰り返される。

第二楽章：一変して愛らしく長い旋律が主体となる。例によって主題は楽器を変えながら繰り返され、総奏となるクライマックスはパイプオルガンの幅広い響きを連想させる。

第三楽章：打楽器のアンサンブルで始まり、4小節からなるパターンがしばらく繰り返される中、この楽章の旋律的な主題がいくつか現れる。これらは様々な形で複雑に組み合わされ、作品全体を特徴づけるオスティナートの理念が強調される。

ホルン 3年 金井 亮介

PROGRAM NOTES

J.ヘルメスベルガー2世 (B.ヴァン・ティーネン 編曲) / 悪魔の踊り

ヨーゼフ・ヘルメスベルガー2世 (1855-1907) はオーストリア出身の音楽家。祖父、父、叔父、兄弟を含む有名な音楽一家で育った。ヴァイオリン奏者として、1875年に父が創立したヘルメスベルガー弦楽四重奏の団員となり、1890年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、1901年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者を2年間務めた。作曲家としては、オペレッタ、バレエ作品、歌曲を作曲した。

この曲は2002年に小澤征爾が振ったウィーン・フィルのニューイヤーコンサートで演奏され話題になった曲である。スピード感あふれるエネルギッシュなハイテンポの部分に、中間部はゆったり優雅な3拍子のワルツ。その両方が交互にあらわれる緩急の変化がある作品となっている。

フリューゲルホルン 2年 宮澤 恵美

A.ハチャトリアン (滝澤尚哉 編曲) /

バレエ音楽「ガイーヌ」 (ポリショイ劇場版) より

アラム・ハチャトゥリアン (1903-1978) はグルジア (現在のジョージア) の首都、トリビシに生まれたアルメニア人の作曲家、指揮者。グネーシン音楽アカデミーにてチェロと作曲を学び、その後、モスクワ音楽院でミャコフスキーより作曲を学ぶ。アルメニアを始めとするコーカサス地方の民族音楽を自身の作品に多く取り入れ、独特で印象的な作品を数多く残している。

この曲は4幕からなるバレエ作品で、1942年に初演された。原典版のあらすじは以下である。集団農場の会長であるオヴァネスの娘ガイーヌは、ソビエト軍の領地に密かに侵入しようとする不審者を捉える手伝いをしていた。ガイーヌが子供を寝かしつけていると、夫ギコのもとへ密輸入者が訪ねてきて、国外へ逃亡する話をしていった。夫に自首するように促したガイーヌだが、ギコにより部屋にとじこめられてしまう。山中に逃亡したギコたちは、ガイーヌの兄アルメンに道を尋ねるが、不審に思ったアルメンは、国境警察隊長のカルサコフを呼びに行かせ、密輸入者はカルサコフに捕えられる。ギコは農場の綿花倉庫に放火し逃げようとしたがガイーヌに見つかってしまう。ギコは我が子を人質に取り、ガイーヌをナイフで刺して逃亡するが、カルサコフに捕らえられる。その後、カルサコフと恋に落ちたガイーヌは結婚式を行い村人たちに祝福されて幕を閉じる。後年に発表された改訂版ではあらすじが大きく変更され、また新たに数曲加えられた。用いられる楽曲が全50曲にもものぼるこの作品から、今回は「剣の舞」をはじめ、改訂版にて追加された「収穫祭」など9曲を演奏する。

サクソフォーン 2年 新井 琴乃

CONDUCTOR SHIGEEO GENDA

指揮者 **現田 茂夫**

© K.Miura

東京生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。1986年二期会オペラ「ヘンゼルとグレーテル」でオペラ・デビュー後、二期会オペラ「こうもり」等で活躍する一方、オーケストラコンサートでも実績を積む。1987年、新星日本交響楽団指揮者に就任。1988年来日中のドレスデン・フィルに客演。1990年新星日響とヨーロツパ演奏旅行。同年ウィーン国立歌劇場に国費留学。1991年スロヴァキア・フィルに客演。1992年プラハ国立歌劇場日本公演の指揮者として客演。同年プラハ交響楽団の定期公演に初登場し、翌年“プラハの春”での“佐藤しのぶリサイタル”は、センセーショナルにヨーロツパで放送された。

1996年より13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年4月より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストラとも数多く共演し高評を得ている。また、世界的チェリスト故ロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高い評価を得た。オペラ指揮者としても経験豊かで、関西二期会、東京二期会を中心に数多くの公演を行なっている。“佐藤しのぶドラマチック・リサイタル”(全国ツアー)、“夕鶴”のカザフスタン/ウズベキスタン/東京公演、“天守物語”等、日本のオペラも積極的に行なっている。2004年秋にはブラチスラヴァでスロヴァキア国立歌劇場の「椿姫」を指揮し、さらに同日本公演でも好評を博した。2002年から15年は錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め全国公演。2011年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で「椿姫」を公演。14年には市川右近(現三代目市川右團次)新演出“夕鶴”の全国公演も行い高評を得、16年に再演を行った。アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール(イタリア/トレント)の審査員や、NHKの「FMシンフォニー・コンサート」のパーソナリティを3年間務めるなど、バラエティに富んだ活動を行なっている。

MEMBERS

Concert Mistress	江原 春香			
Soprano Saxophone	岡本 彩花 北島 実幸	石田 真彩 駒田 雅乃	吉田 勇雅 高矢 真優	伊藤 有莉愛 新田 乙葉
Alto Saxophone	寺東 春美 金丸 璃奈	阿部 未来 緒方 柊	泉波 陽美 瑞慶山 百恵	楠本 夢菜
Tenor Saxophone	川口 華菜 新井 琴乃	水野 加奈子 新井 楓花	志賀 友香 植木 里花	八木 寛菜
Baritone Saxophone	大澤 茉依 西田 大也	竹内 勇人 岡本 息	葛城 輝	坂井 開
E♭ Cornet	加藤 早弥乃	池谷 彰恩	正木 航	菊地 伶海
Flugel Horn	植田 優花 井上 瞳	江原 春香 小松 美羽	渡辺 寛子 宮澤 恵美	竹内 大輝 谷中 彩乃
Trumpet	宇津木 清来 神山 柁紀 杉原 輝	藤田 雄大 大島 香那	堀江 風雅 清水 愛和	鹿野 円香 松尾 知樹
French Horn	半崎 愛理 PAN JUNLIANG	梶田 茉朋	金井 亮介 浅田 万結井	中野渡 真咲
Trombone	永吉 彩花 伴 芽衣菜 永野 宏弥	林 剛潤 望月 愛永 宮川 蒼汰	三浦 健 石澤 百蘭	CHI YAN-JEN 中田 夏葵
Baritone	市村 結衣	大島 成実	荒木 優奈	関口 嬉架
Euphonium	加藤 千聖	佐々野 広雅	清水 榛菜	増野 玲音
E♭ bass	遠藤 愛奈	長谷川 夏帆	佐藤 凪紗井	
B♭ bass	高島 佳樹	櫻井 希有		
Percussion	栃下 紗奈 加藤 海夏太 浅井 惇 林 まど子	中嶋 遼 山野 智広 内田 光太郎 李 泰我	前田 步都 YANG YIDA 岡崎 颯太	前田 伶弥 相川 拓音 竹内 夏美
Harp	大隅 レオナ*			
Piano	原 彩子井			
オンライン受講生	ZHANG XIAOHAN		井…賛助	*…演奏補助要員

STAFF

企画運営責任者
副責任者
指導教員

露木 薫

岩本 伸一

松元 宏康

本間 千也

菅 貴登

齋藤 充

野本 洋介

土屋 莉帆

海野 匡代

滝澤 尚哉

貝沼 拓実

古田 賢司

府川 雪野

荻野 晋

成田 徹

五十畑 勉

山口 隼士

次田 心平

上田 仁

久永 重明

新井 秀昇

渡邊 功

神代 修

池上 巨

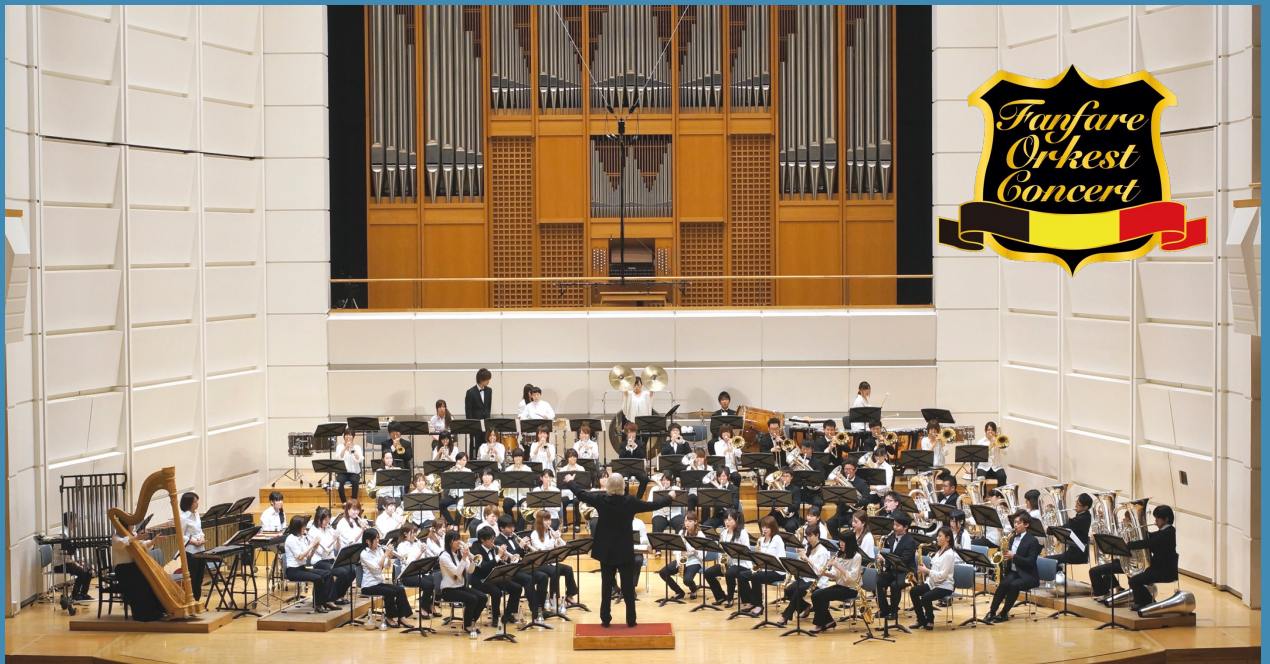
岩黒 彩乃

中村 祐子

助手

アカデミックコーディネーター

洗足学園音楽大学 ファンファーレオーケストラ



2004年に開催された「洗足学園80周年記念演奏会」にて、日本の音楽大学において初めて「ファンファーレバンド」の団体として結成、2005年より深石宗太郎氏の企画運営の下、正式な講座として立ち上がり活動をはじめた。同年6月、客演指揮者としてこの道の権威で作曲家として名声高いヤン・ヴァンデルロースト氏をベルギーより招き、デビューコンサートが行なわれた。その後もベルギーを代表するトランペット奏者・指揮者のマニュ・メラーツ氏等の客演指揮者を毎年迎えている。2011年度より団体名を「ファンファーレオーケストラ」に変更。豪華な指揮者陣の指導の下、欧州で発展したファンファーレオーケストラの更なる研究に励んでいる。